【特別企画ツアー】

「イザベラ・バードの足跡を訪ねて」解説コーナー

解説1

イザベラ・バードについて

イザベラ・バードは、日本が世界に対して開港してまもない 1878 年、単身日本を訪れ、一人の日本人通訳を供に、まだ外国人が多くは訪れていなかった東北地方、北海道を訪れ、函館、室蘭、白老を経て平取を目指しました。イザベラ・バードの旅行記『日本奥地紀行』は、旅の道中で見聞きした日本の気候風土、人々の暮らし、アイヌ民族とのふれあいなど当時の様子を紹介しており、当時の日本の様子を知る上での貴重な資料として、道内外の郷土史家や多くの研究者によって幅広く研究され、その功績を継承する活動が行われています。

『日本奥地紀行』

解説2

1日目の函館市内観光（フットパス）

フットパス（footpath）とは、もともと英国で発達した「歩くことを楽しむための道」のことです。今回は、かつてイザベラ・バードが歩いたと思われるルートを辿り、地元の方から主な施設について解説いただきます。

準備事項と当日の予定

○歩く距離は2km です。
○歩きやすい服装と靴を各自でご準備ください。
○小雨程度であれば歩きますので、各自で雨具をご用意ください。
○札幌からのバスは最初にホテルに到着し、歩くのに必要なもの以外の荷物を下ろしてからバスで函館公園に向かいます。
○函館公園から、講演会場の金森赤レンガ倉庫まで歩き、講演会（夕食付）に参加して、終了後は各自でホテルに戻ります。

太線ー：調査ルート
★黒　：立寄・解説施設 ①～④及び終着地点
★赤　：函館バス到着地及び宿泊場所

解説3

2日目の函館～七飯～森ルート

イザベラ・バードが歩いたと思われるルートに沿って、明治時代に北海道を訪れた外国人の足跡も訪ねます。主に、バスで移動し七飯町と森町で下車して解説を聞いて少し歩きます。

七重官営農園のジオラマ

ゲルトナーのブナ林

森港桟橋跡(昭和 20 年代の写真)

解説4：講演会

1日目の講演会の講師

かとう・ゆきこ
加藤幸子氏について

作家・ナチュラリスト。北海道生れ。北海道大学卒業。1982 年「野鼠鬼のいた村」で新潮新人賞、1983 年「夢の壁」で芥川賞、1991 年『尾崎翠の感覚世界』で芸術選奨文部大臣賞、2001 年『長江』で毎日芸術賞を受賞。他著に、『北京海棠の街』『緑翠色のメッセージ』『時の筏』『苺畑よ永遠に』『翼をもった女』『茉莉花の日々』『池辺の棲家』『心ヲナクセ 体ヲ残セ』などがある。